

ファスナーが拓く
失敗しない
屋上緑化システム[®]

特許取得の
ファスナー式緑化袋
常緑キリンソウ袋方式[®]

15866と4911418、
そして6125712。
この数字が意味するものは、
他を寄せ付けない
圧倒的な知識と技術です。

常緑キリンソウ袋方式[®](特許・商標・品種登録)のトリ

常緑キリンソウ育成者権(品種登録)
「品種登録番号 第15866号」(トットリフジタ1号)



環境保全および地球温暖化を抑止する目的で、日本のセダム研究者として著名である、株式会社フジタ(パラダイスパーク)の初代社長・藤田道明氏によって開発された新品種が「常緑キリンソウ」です。キリンソウは日本在来の植物。日本各地の山地や海岸の乾いた岩の上などに自生し、-40~+50℃、3か月雨が降らなくても生存可能な植物で、セダム緑化に失敗した箇所の補修用としても利用されてきました。従来の品種では冬季の落葉という大きな弱点がありましたが、これを克服し、優れた点が多くある植物が「常緑キリンソウ」です。



ブル知的財産権が、失敗しない屋上緑化へ導く

常緑キリンソウ袋方式[®]

袋特許「特許第4911418号」+ 登録商標「第6125712号」



常緑キリンソウは、既存工法での使用や失敗した緑化箇所の補修用としても利用されてきましたが、どうしても表面に土が出ているため、雑草の侵入や土壌の流出をくい止められませんでした。

そこで、現場発のソリューションとして開発されたのが、常緑キリンソウ袋方式[®]「FTMバッグシステム」です。

FTMは開発者3名の頭文字に由来し、ファスナー付きの袋は特許を取得しています。常緑キリンソウ袋方式[®]は、特許・商標・品種登録の3つを取得している緑化システムです。



いつまでも
緑のままできてくれる、
そう思っていた。

既存の緑化システムは失敗をすることが多い。
それは一度導入すれば終わりという考えと、
さまざまな自然由来による要因が絡み合った結果です。

失敗の原因1 ▶ 異常気象



これまで屋上緑化で使用されてきた地被植物が、屋上で生存できないほど過酷な環境に変化してきています。

屋上緑化に使用されてきたセダムを、「強靱な性質で、屋上緑化に適した植物として、近年注目を集めています」と謳う業者がいまだに存在しますが、屋上の環境が変化してきたことを念頭に置き、植物の耐環境性に関する新しい情報を仕入れる必要があります。

失敗の原因2 ▶ 屋上の環境に合わない植物の選定



セダムが使用される「薄層型の屋上緑化」は、日本ではメンテナンスフリー的イメージで急速に拡大しました。しかし、外来種のセダムには日本の高温多湿がかなり厳しい環境となるため、適切なメンテナンスが必須です。放置していると数年後には枯れてしまい、緑化の役目を果たさなくなります。これはコケ緑化も同様で、緑化維持のためにどこまでメンテナンスできるのかを考えた植物の選定が必要です。

失敗の原因3 ▶ 雑草



春～秋にかけて温かいシーズンには雑草が増えてきます。屋上緑化では、オヒシバ、スズメノカタビラ、エノコログサ、メヒシバ、ノボロギク、オオイヌノフグリなどの雑草が見られます。また、植えていない植物が芽生えて生育することがよくありますが、これは鳥や風が種子を運んでくるからです。除草を行わないと雑草に覆われた状態になり、肝心な植物が死滅してしまいます。

失敗の原因4 ▶ 土壌の流出



「失敗の原因1」でも述べたように、異常気象による激しい風雨は屋上緑化にとって厳しい環境です。屋上緑化軽量システムは荷重を60kg/m²以下とするために、そのような状況下でも3～5cm程度の薄さの土壌厚しかありません。激しい雨や風によって土が流出するケースも増えており、土がなくなってしまえば、当然植物を生育することはできません。



いとこどりの
屋上緑化システムなんて、
存在しないと思っていた。

屋上緑化をするにあたって大切なことは、
設置、メンテナンス、そして防水改修の容易さです。
それらを叶える唯一の屋上緑化システムがここにあります。

屋上緑化だからこそ先々を考えたい

屋上緑化をすることで、屋上は紫外線や酸性雨による劣化から守られます。しかし、従来の屋上緑化工法で防水改修工事を行うのは容易ではありません。なぜなら、一般的な屋上緑化システムは構成する部品が多い上、風で簡単に飛散しないよう、植物が植えられたトレー同士を緊結して交点を金物で固定、その金物底面も接着剤で固定しているためです。加えてトレー表面は土が出ているので、運搬時に土壌飛散の懸念があり、防水改修を行おうとすると大変な作業になります。



一般的な屋上緑化システムの施工例。防水改修の際に障害となる施工方法が採用されている。

一方で常緑キリンソウ袋方式[®]はとてもシンプルなアプローチのため、防水改修も簡単に行えます。固定せずとも風速45m/sまで耐えられるため、移設のための取り外しは容易。土も袋に入っているので運搬時に飛散せず、汚れが少ないのも特徴のひとつです。風への抵抗性と防水改修の容易性という相反する問題を解決して、屋上緑化の可能性を広げるのが常緑キリンソウ袋方式[®]。この点が評価され、大手デベロッパーの設計仕様に入っています。

なぜ知的財産権(特許・商標・品種登録)を取得しなければならなかったのか



常緑キリンソウを開発した、株式会社フジタの初代社長・藤田道明氏は、観光植物園を経営する傍ら、植物を探し回るプラントハンターでした。植物採取で訪れた中国奥地では焼畑農業が行われており、「環境破壊ではないのか」と指摘したところ、「我々は生きるために焼畑を行っており、逆に日本の方が環境破壊をしている」と言われたことをきっかけに緑化事業に転身しました。

しかし、当時はゼネコン中心社会で、下請けの造園業者の利益は少なく、「安かろう悪かろう」の製品がまかり通っていました。

そこで、「施主、ゼネコン、造園業者、生産者の全員が満足できる製品を作る」との思いで十数年の歳月をかけて誕生したのが常緑キリンソウ、そして常緑キリンソウ袋方式[®]です。この思いの継続、安定的な緑化の維持、粗悪模倣品から守るためにも知的財産権を取得しています。



常緑キリンソウ袋方式[®]が既存の施工方法を打破し、 オアシスを末永く維持できる理由。

常緑キリンソウ袋方式[®]の特徴1 ▶ ファスナー式で設置が簡単



これまで屋上緑化は専門の業者にしかできないシステムが多数でした。しかし常緑キリンソウ袋方式[®]は非常に簡単。現場に土が入った袋と常緑キリンソウの苗が届くので、袋のファスナーを開き苗を入れてファスナーを閉じるだけ。

そして、この袋を並べることで緑化が完成する、簡単な失敗しない屋上緑化システムが常緑キリンソウ袋方式[®]なのです。



この簡単さは子どもでも緑化を可能とし、環境教育を含めた緑化、また自社ビルの社員による屋上緑化など、さまざまな場面において活用の方が広がっています。



常緑キリンソウ袋方式[®]の特徴2 ▶ 雑草が生えにくい



従来方式は表面に土が出ているため、丈夫な常緑キリンソウを使用しても雑草の侵入は防げませんでしたが、常緑キリンソウ袋方式[®]は防草シートで作られており雑草が侵入しにくい構造です。

従来方式

常緑キリンソウ



雑草が侵入する



雑草が侵入しにくい

雑草繁茂比較実験の
動画はこちらから



常緑キリンソウ袋方式®の特徴3 ▶ 土壌が流出・飛散しない



従来方式は表面に土が出ているため、豪雨や強風で土壌流出の恐れがあります。常緑キリンソウ袋方式®は袋の中に土が入っているため、豪雨・強風による土壌流出を防ぐのです。雨にも負けず、風にも負けず、雪にも夏の暑さにも負けずに生育が可能です。

土壌流出比較実験の動画はこちらから 

土壌飛散比較実験の動画はこちらから 



常緑キリンソウ袋方式®の特徴4 ▶ 風に強い



従来のトレー式は板状で硬い素材のため風の影響を受けやすく、少しでも浮き上がると一気に強風に飛ばされてしまいます。常緑キリンソウ袋方式®は柔らかく変形が可能、しかも風をわずかながら通すので、浮力が発生しにくく飛びにくい構造になっています。

風洞実験比較の動画はこちらから 



平均風速(m/s)	10~15	15~20	20~25	25~30	30~35	35~40	40~
風の強さ	やや強い風	強い風	非常に強い風		猛烈な風		
人への影響	 風に向かって歩きにくく傘がさせない	 風に向かって歩けなくなり転倒する人も出る	 何かに掴まっていないと立っていられない		 屋外での行動は極めて危険		
屋外・樹木の様子	 樹木全体が揺れ始め電線も揺れ始める	 電線が鳴り始める	 細い木の幹が折れたり、根の張っていない木が倒れ始める		 多くの木が倒れ、電柱や街頭で倒れるものがある		



より安全を目指して、飛散防止ネットもオプションでご用意しています。

常緑キリンソウが通年で緑を保ち、
今まで緑化が難しかった部分をオアシスに変える理由。

常緑キリンソウの特徴1 ▶ 暑さ・寒さ・乾燥・多湿に強い



植物の光合成には種類があり、常緑キリンソウはC3型とCAM型の長所を兼ね備えています。水分が多い時は昼間に気孔を開いて光合成を行い、水分が少ないと気孔を閉じるため、暑さ、寒さ、乾燥、多湿に強いのです。また、環境に応じて光合成の方法を使い分ける「ハイブリッド植物」のため、日本の気候に適應できます。

常緑キリンソウは誘導型CAM

C3型



樹木、芝生、稲など

C4型



トウモロコシ、サウキビなど

CAM型



多肉植物、パイナップルなど

環境に合わせてC3とCAMを変化

従来方式

常緑キリンソウ

VS
暑さ



暑さに弱い



暑さに強い

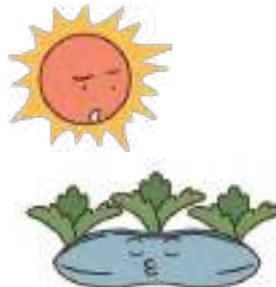


奥が常緑キリンソウ、手前がセダム

VS
乾燥



乾燥に弱い



乾燥に強い



法面で生育する常緑キリンソウ

VS
寒さ



寒さに弱い



寒さに強い



越冬中でも緑を保つ常緑キリンソウ

常緑キリンソウの特徴2 ▶ 茎が木質化してCO²を固定



茎部分が木質化して樹木のような強健さを持ち、さまざまな生育環境に適応できます。1本の小さな苗が株元を中心として、樹木のように広がり、しっかり根を張ります。背丈は30cm程度まで成長して、葉が覆い重なるように広がります。乾燥重量でCO²固定度を芝生と比較した場合、常緑キリンソウは芝生の約3倍もあります。



鳥取大学乾燥地研究センター提供資料

常緑キリンソウの特徴3 ▶ 薄層緑化で生育OK



キリンソウは、もともと海岸の岩場に生育するような植物です。わずかな土壌でも樹木のようにしっかり根を張り、強風、豪雨に耐えてきたため、3~5cm程度の厚さの土壌と自然の雨だけでも健全に生育します。

常緑キリンソウの特徴4 ▶ ローメンテナンスと高保湿



前述したように乾燥に非常に強く、自然の雨水のみで生育する上、11月末~12月にかけて古い葉が枯れて新芽と入れ替わるので、特に剪定の必要がなく、1年を通して手入れがほぼ不要です。また、灌水設備を必要としないほど保水機能が高いため、水害防止に貢献できます。デッドスペースとなりがちな屋上部分を「土壌」として活用し、ヒートアイランド防止効果や都市型洪水防止の効果をもたらします。



An aerial photograph of a modern architectural complex. The image shows several multi-story buildings with white facades and grid-like window patterns. The buildings are interspersed with lush greenery, including trees and landscaped courtyards. A prominent feature is a large, irregularly shaped courtyard area with a circular path and various green spaces. The overall impression is one of a well-integrated urban environment with significant green space.

緑があるってことが、
こんなにいいとは思
わなかった。

私たちが手がけた屋上緑化システムは、
こんなにも多くの場所や形で、多くの人たちに愛されています。

屋上緑化

埼玉県 松原団地 立体駐車場屋上



屋上の駐車スペースを720㎡緑化しています。
将来車が増えた場合には、駐車スペースに戻す
ことも考えられた緑化です。

群馬県 前橋第四中学校



科学クラブが主体となり、生徒自らが屋上まで材
料を運び、袋に植栽して並べ、緑化を完成させま
した。子どもたちでも簡単に緑化が可能です。

愛知県 名古屋市にある公務員宿舍



一般的なトレー式では対応できない、矩形が無く、
全て曲線部分で構成された屋上の約180㎡緑化で
す。こうした現場に合わせた屋上緑化も可能です。

東京都 品川区平塚二丁目町会



水と緑が身近にある豊かな暮らしをつくる方針
の下、平塚二丁目町会の屋上を緑化。ローメンテ
ナンスが採用の決め手となりました。

東京都 文京区マンション既存緑化改修



ももとはセダムによる屋上緑化でしたが、雑草
化して問題になっていたため、既存部分を残し
つつ改修しました。

東京都 大田区大森町マンション



10月上旬に施工して12月上旬の状態。常緑キリ
ンソウは11～12月に新芽と入れ替わるため、
新旧の葉が混じった状態となっています。

屋根緑化

神奈川県 ガンダムファクトリーヨコハマ



約600㎡の折板屋根緑化です。屋根全体に防草シートを敷き、谷部分に袋を並べています。安全を考慮し緑化面を飛散防止ネットで覆いました。

東京都 台東区浅草文化観光センター



浅草雷門から見える特色のある建物で、日本の有名建築家によるデザインです。安全を考慮し緑化面を飛散防止ネットで覆いました。

福岡県 久留米市クリーンセンター



折板全体に防草シートを敷設し、谷部分に常緑キリンソウを並べています。袋同士は長手方向で連結し、端部はチェーンと連結しています。

東京都 区立の施設折板屋根



夏の暑さ対策として、折板屋根を緑化しました。屋上緑化の効果で、下の部屋の暑さ・寒さ対策となります。

東京都 プレハブ事務所の暑さ対策



夏の暑さ対策、環境対策として折板屋根を緑化しました。工場立地法による緑地面積の確保、環境ISOにも対応できる緑化です。

鳥取県 個人邸



個人宅の屋根を雪止め金物を利用して緑化しました。長方形タイプの袋を利用しています。一般住宅でも簡単に緑化が可能です。

壁面緑化

岐阜県 民間事務所ビル壁面



建築工事で用意されたアルミ製の枠の中に、常緑キリンソウ袋方式®を入れて壁面緑化を行いました。アルミ枠は別途建築工事となります。

東京都 伊豆大島 民間施設コンクリート壁



常緑キリンソウ袋方式®の壁面緑化用にはハトメが付いています。このハトメを利用し、アンカーボルトで壁面に固定します。

法面緑化

鳥取県 三朝砂防堰堤



これまで砂防堰堤では緑化が困難、緑化しても緑化の維持が困難でした。常緑キリンソウ袋方式®ならば、こうして簡単に緑化が可能です。

兵庫県 香住IC



インターチェンジの目印として、文字による緑化を実施しました。ローメンテナンスだからこそできる文字の緑化システムです。

その他の緑化

鳥取県 ソーラーシェアリング

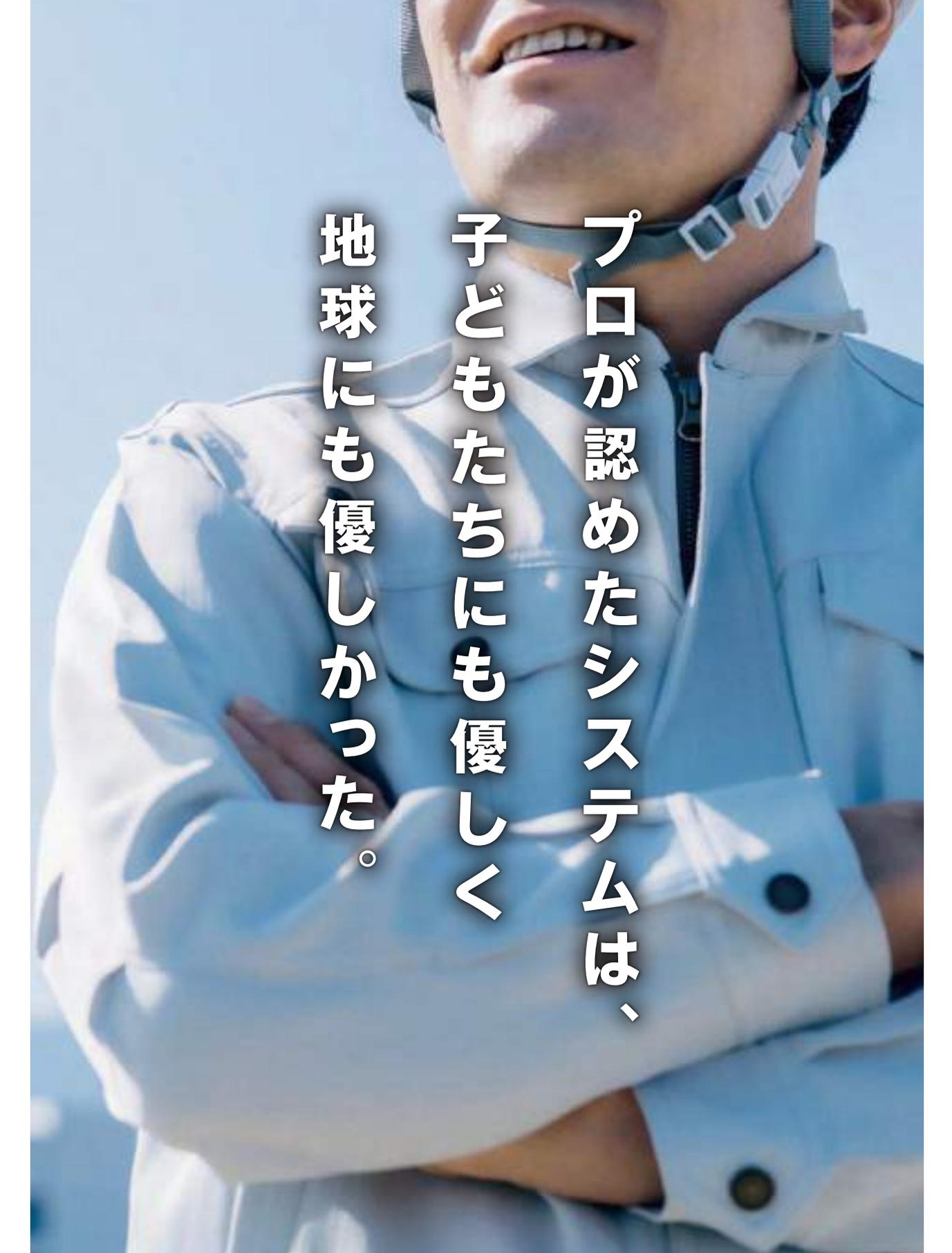


ソーラーパネルの下で栽培された常緑キリンソウが、屋上緑化、壁面緑化、法面緑化として全国で活躍しています。

福島県 本宮市復興プロジェクト



汚染土壌仮置き場の景観問題解決も兼ね、福島県本宮市役場で緑化を実施しました。植物が持つ癒し効果を実感できる広場となりました。



プロが認めたシステムは、
子どもたちにも優しく
地球にも優しかった。

子どもでも施工できることこそが完成されたシステムの証。
 少ない施工リソースと低ランニングコストで、
 地球のサステナビリティに寄与します。

散水装置は不要

無灌水と宣伝する緑化でも、「〇週間雨が降らなかった場合は散水してください」と小さな文字で記載している場合があります。そのため、枯れてしまったのは散水しなかった管理会社の責任となったケースがあります。常緑キリンソウ袋方式[®]は、3か月雨が降らなくとも植物が生き残る、非常に乾燥に強いシステムです。雨が当たる場所なら、散水装置を必要としません。



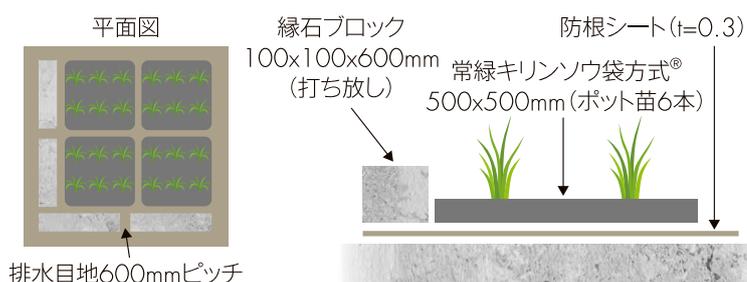
袋の仕様

ファスナー付き袋の標準サイズは50cm角で、湿潤重量が1枚13kgです。袋の素材は防草シートとなっており、土に水分を与えると同時に乾燥を防ぎます。ファスナーを開いて苗を植え、ファスナーを閉じるだけ。植物が入った袋を並べて緑化が完成します。袋には15×100cmの長方形タイプもあり、ハトメ付きやサイズのオーダーも可能です。



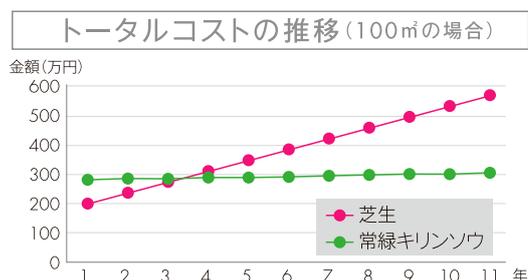
標準断面図

これまでの屋上緑化は、耐根層、貯水排水層、土壌から構成される物や固定金具、植物維持のための散水設備などを必要とした複雑な構造でした。常緑キリンソウ袋方式[®]は、非常にシンプルな断面構造となっています。



ランニングコスト

施主や工事業者は、初期費用を抑えるために安いシステムを選びがちですが、緑化は設置して終わりではありません。屋上緑化を導入して初めて気づくのが、メンテナンスに手間とお金がかかることです。雑草対策、散水、土壌の飛散など管理する項目が多々あります。このメンテナンス費用を劇的に減らしてくれるのが常緑キリンソウ袋方式[®]です。



常緑キリンソウ緑化までのプロセス

東京都 文京区マンション既存緑化改修



施工前



施工



4月21日撮影

施工完了



7月16日撮影

施工約3か月後

群馬県 前橋第四中学校



施工前



施工



5月29日撮影

施工完了



3月11日撮影

施工約9か月後

常緑キリンソウによる屋上緑化施工実施要領

① 材料の搬入及び荷揚げ

- ・縁石ブロック、防根シート、袋(土壌)、常緑キリンソウ他の搬入
- ・緑化資材の荷揚げ



② 防根シート敷設

- ・防根シート(幅2m・t=0.3)敷設
- ・防根シートは重ねしろを取って敷設する



③ 縁石ブロック設置

- ・縁石ブロック(100x100x600mm 打ち放し)設置
- ・縁石ブロックと縁石ブロックの間には排水用の目地(10mm程度)を設ける
- ・防根シートと縁石ブロックを接着材で固定



④ 常緑キリンソウ植込み

- ・袋には専用土壌をあらかじめ入れた状態で搬入する
- ・ファスナータイプの袋(500x500mm)を使用
- ・袋(500x500mm)に常緑キリンソウを6本(ポット苗)を植込み(24本/m²)



⑤ 植込み袋敷設

- ・常緑キリンソウを植込んだ袋(500x500 常緑キリンソウ6本)を敷設



⑥ 片付け及び清掃

- ・片付け、清掃、材料等の荷おろし



⑦ 工事完了

3月完了



7月の状態



常緑キリンソウの経過状況

常緑キリンソウは通年緑を保ちますが、いつでも同じ状態ではありません。

「常緑」の樹木でも、葉の生え替わりはあります。常緑キリンソウは11月末～12月ぐらいの時期に、古い葉が枯れ、新芽と生え替わります。新芽と入れ替わることで通年、緑を保つのです。



2009年6月10日
3月に施工 土壌が見える



2009年8月19日



2009年11月30日
新旧の葉の生え替わり



2010年5月25日
1株の緑量が増し隙間無い状態

メンテナンス

常緑キリンソウは今までの屋上緑化などで使用されてきた植物に比べ、メンテナンスの量は格段に少なくなっていますが、メンテナンスフリーではありません。雑草が入った際は雑草を抜き、年に1度～2年に1度程度は肥料の散布を行なってください。また、屋上緑化の場合には、ドレイン（排水口）廻りの点検、清掃は必ず行なってください。



雑草が生えた際は抜く



年に1度～2年に1度の肥料散布



ドレイン廻りの点検、清掃

夏期・冬期の注意事項

夏期の場合



夏の暑さで一部が左写真のように葉が抜けたような状態になることがあります。これは暑さや蒸れに対して、植物が風通しを良くするための防衛手段です。茎の根元を見ると、右写真のように新芽が出ていますので、秋になると成長して緑が戻ってきます。



冬期の場合



11～12月頃の生え替わりは、伸びた部分が枯れますが、新芽がたくさん出ています。春になると、一面緑に覆われます。



緑とともに生きる、
自然とともに暮らすために、
できることがある。

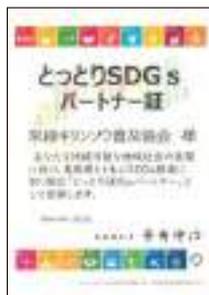
人間と自然は切っても切れないもの。

この先もずっと自然に寄り添い生きていくために、

今からできることがあると考えています。

SDGsへの取り組み

私たちは常緑キリンソウ普及協会®として、常緑キリンソウの生産元である株式会社フジタとともに2022年1月に「とっとりSDGsパートナー」に登録しました。持続可能な地域社会の実現に向けて鳥取県とともに、さらには全国、世界とひとつになってこの取り組みに積極的に参加していきます。



ソーラーシェアリングで
常緑キリンソウの生産



食品ロスを
肥料として土づくり



障害者支援施設への支援



子どもたちの未来へ向けて



環境教育の推進



地球温暖化防止へ向けて



乾燥地・砂漠化防止
プロジェクト、緑化研修



屋上・屋根・壁面・法面緑化
など都市緑化の推進



かけがえのないものを作ったのだから、
しっかりと守り、育てていく責任があると思う。

私たちが取り組む責任1 ▶ 育成者権(品種登録)



「シャインマスカット」や「イチゴ」が国外で無断栽培され、問題となっているニュースを見聞きしたことはないでしょうか。

植物の新品種を育成した者に、知的財産権のひとつである「育成者権」を付与し、この権利を一定期間保護する制度が、種苗法に規定されている品種登録制度で、「常緑キリンソウ」(トットリフジタ1号:品種登録番号第15866号)は、株式会社フジタの登録品種です。この登録品種を無断で生産・販売すると種苗法違反に問われ、刑事罰を科されるなどの厳しい措置があります。

私たちが取り組む責任2 ▶ 知的財産権



人間の幅広い知的創造活動の成果について、その創作者に一定期間の権利保護を与えるようにしたのが知的財産権制度です。知的財産権は、さまざまな法律で保護されており、特許権や著作権などの創作意欲の促進を目的とした「知的創造物についての権利」と、商標権や商号などの使用者の信用維持を目的とした「営業上の標識についての権利」に大別されます。また、特許権、実用新案権、意匠権、商標権及び育成者権については、客観的内容を同じくするものに対して排他的に支配できる「絶対的独占権」と言われています。

[育成者権] 育成者者:藤田愛子
常緑キリンソウ「トットリフジタ1号」(品種登録番号第15866号)
常緑キリンソウ「トットリフジタ2号」(品種登録番号第15867号)

[特 許] 特許権者:藤田豊博
「常緑キリンソウ袋方式」(特許第4911418号)
*特徴:ファスナーを用いた不織布製の植栽袋(ファスナー式植栽袋の特許)

[意 匠] 意匠権者:藤田豊博
「常緑キリンソウ袋方式」(意匠登録第1397102号)
*特徴:ファスナーを用いた不織布製の植栽袋(ファスナー式植栽袋の意匠登録)

[商 標] 登録商標:株式会社フジタ
「常緑キリンソウ」(登録商標第6437117号、6548678号)
「常緑キリンソウ袋方式」(登録商標第6125712号)
登録商標:株式会社緑化計画研究所
「常緑キリンソウ.com」(登録商標第6031235号、6110265号)
「常緑キリンソウ普及協会」(登録商標第6221773号、第6607223号)
「屋上緑化革命」(登録商標6610420号)
「失敗しない屋上緑化システム」(登録商標第6433898号、第6562469号)

組織概要

会社概要

- [商 号] 株式会社 緑化計画研究所
- [本 店] 神奈川県横浜市南区永田東2-27-17
- [設 立] 平成19(2007)年1月23日
- [事 業] 屋上緑化・壁面緑化・その他緑化に関する設計・施工・緑化資材の販売



常緑キリンソウ普及協会® 組織概要

[目 的] 常緑キリンソウ普及協会®(以下「本会」という。)は、環境事業の重要性を認識し、緑化技術の向上を図り、地域社会の発展に寄与する事及び常緑キリンソウ(トットリフジタ1号:品種登録番号第15866号及びトットリフジタ2号:品種登録番号第15867号)(以下「常緑キリンソウ」という。)の普及活動を行うと共に、相互の親睦を深めるための活動を目的としています。また、種苗法の第1条には、「この法律は、新品種の保護のための品種登録に関する制度、指定種苗の表示に関する規制等について定めることにより、品種の育成の振興と種苗の流通の適正化を図り、もって農林水産業の発展に寄与することを目的とする。」と記載があります。常緑キリンソウは、種苗法における登録品種であり、一般的には認知度の低い種苗法に関しての啓蒙活動を社会的義務・社会的責任だと捉え、活動しています。



[活動内容] 本会は下記に示します事業を行うために必要となる知識、技術等を習得するためのサポート及び常緑キリンソウの普及活動を行います。また、種苗法上の品種登録制度や育成者権に関する啓蒙活動を推進しています。

1. 常緑キリンソウ緑化の普及に関する事業
2. 緑化事業に関する印刷物の企画・出版、イベントの企画・運営、宣伝広告に関する事業
3. 環境事業の技術向上に関する事業
4. 緑化事業の企画、設計、施工に関する事業
5. 緑化資材・工法の研究、開発、販売に関する事業
6. 緑化による環境事業の技術指導に関する事業
7. 緑化事業及び環境事業に関する教育活動に関する事業
8. 会員相互の親睦、団結を図る事業
9. その他、本会の目的を達成するための必要な事業

本会では、展示会への出展、子どもたちへの環境教育、ソーラーシェアリングによる常緑キリンソウの生産、東北の震災復興として汚染表土仮置場の緑化、砂漠化防止プロジェクト、大学との連携など常緑キリンソウを通してのさまざまな活動を行っています。



株式会社 緑化計画研究所 / 常緑キリンソウ普及協会®

<https://kirinsou.jp/>



〒232-0072 神奈川県横浜市南区永田東2-27-17

TEL.045-326-6587 FAX.045-326-6588